

泉南アスベスト国賠訴訟原告団 / 弁護団 早期救済 国会通信

●大阪・泉南アスベスト国賠訴訟原告団 / 弁護団

「被害の原点を救済の出発点に」

裁判所は、 国は、 早期解決の決断を！

**泉南市長、阪南市長、
各議長からメッセージ**

9月12日泉南市の樽井公民館で、「泉南アスベスト早期解決を求める泉南集会」を開催。泉南市長、阪南市長(代理)、泉南市議会副議長、超党派の市議7名をはじめ120人が出席し、阪南市議会議長からもメッセージが寄せられました。

集会では、11月17日の控訴審第一回期日に、裁判所が解決勧告をだすこと、国にはそれに応じて早期に解決の決断をするよう働きかけていくという方針が提起され熱心に積極的な討論が行われました。

この集会に先だって原告団は原告団総会を開き、「一日も早い解決を求める決議」を全員一致で採択しました。決議の一部を紹介します。

「……原告らの病気の重篤化と高齢化は、泉南アスベスト国賠の早期解決を強く求めています。「生きているうちに解決を」は、原告らの当然の、そして譲ることができない切実な願いです。

私たちは、早期解決に向けて、控訴審裁判所に対しては11月17日

の第一回期日で和解勧告を行うことを、国に対しては一刻も早い解決を決定することをそれぞれ強く求めています。

**高裁に解決(和解)勧告を
求める上申書を提出**

13日には大阪高等裁判所第14民事部に、「泉南アスベスト被害は、国による公式確認から70年、原判決の違法認定からすでに50年が経過しています。早期全面解決は急務なのです。

よって、一審原告らは、来る11月17日の第一回口頭弁論期日において、貴裁判所が、当事者双方に対して和解を勧告されるよう強く要請するものです」とする上申書を提出しました。

各政党、各省庁に要請書

大阪府内44議会で24議会で、判決を機に泉南アスベスト被害の解決を要望する意見書が採択され、大阪府、泉南市、阪南市も、国に早期解決を要請しています。

原告団・弁護団では、控訴審を迎えるにあたり、9月2日に

各政党府連などに、また9月13日に総理、厚労、環境、財務、法務、内閣官房の各省庁に、それぞれ早期解決を求める要請書を手渡しました。

各界から賛同と激励、連帯のメッセージ



宮本憲一さん
(元滋賀大学学長)

水俣病問題は、司法の最初の判断から実に23年を経て、なお完全に解決していない。この間にどれだけ被害者が苦しみ、社会的紛争が繰り返されたか。アスベスト災害で再度の失敗は許されない。

10月6日(水)

第2陣訴訟・第3回裁判期日

泉南アスベスト国賠の早期解決を
求める大阪市内集会

11月17日(水)

第1陣訴訟・控訴審第1回裁判期日

**運動資金カンパに
ご協力ください**

振込先：郵便振替口座 00930-9-252144

名義 泉南地域の石綿被害と市民の会

E-mail: kataseru@asbestos-osaka.sakura.ne.jp

<http://www.asbestos-osaka1.sakura.ne.jp/kataseru>

泉南アスベスト国会通信

●大阪・泉南アスベスト国賠訴訟原告団 / 弁護団

原告たちの声を聞いてください

泉南アスベスト国家賠償請求原告 古川昭子さん

石綿の仕事は私の人生のすべてでした



私は、昭和19年、15歳の時から、平成に入るまで約40年もの間、石綿紡織工場

で女工として働きました。石綿紡織の仕事は何でもできましたし、やりました。

結婚後も、私は4人の子どもたちを育てるため、毎日必死に働きました。平日は朝5時に起きて朝ご飯や学校の支度をし、朝7時から夜中の12時まで働きました。土

曜日は翌朝の5時までぶつとおしで働きました。仕事明けの日曜日の朝帰ると、ゆっくりする暇もなく一週間のたまった家事をこなし、また翌月曜日から毎日夜中まで働くという日々でした。本当に仕事漬け、石綿漬の毎日でした。

石綿工場は人手が足りず、子連れでもいいから働きに来てくれと言われました。私と同じように子連れの女工がたくさんおり、子どもたちは、工場の床にたまった石綿の粉じんを手ですくっては、「おだんご」だとか「ラーメン」と言

いながら、無邪気に遊んでいました。昭和40年(36歳)ころ、病院で肺が悪くなっていると言われ、痰がよく出るようになりました。それでも毎日、石綿の仕事を続けていました。体が丈夫な私は、自分だけは石綿の病気になるまいと思っていました。ところが、ついに平成18年(77歳)、私は、石綿肺と診断され、じん肺管理区分2という決定を受けました。痰が段々とひどくなり、今では一日に何十回も出しています。しょっちゅう

咳払いをしては詰まった痰を吐き出します。特に朝の起き抜けは、痰が喉にへばりついて、声が出ません。気持ち悪いので強く咳き込んで痰を切ろうとするのですが、なかなか切れず、咳き込むのがとてもしんどいです。人前では痰を出すわけにはいかず、そのときにはがまんして飲み込みます。とても気持ちが悪くなります。少し歩くだけで、ぜえぜえふうふうと息が切れるようになりまして。

石綿肺は一度かかるともう後は進みむしからないそうです。悪くなるだけです。

これまで何人もの友達が肺を患って死んでいくのを目の前で見ってきました。お見舞いに行つた時、「来ないで。空気がなくなる。」と言つた友達の姿が忘れられません。私もあの友達みたいに酸素チューブをくわえてベッドの上で天井ばかり見て苦しんで死んでいくのだろうか、そんなことを考えるとまらなく怖く、嫌になります。

石綿の仕事は私の人生の全てでした。子どものため、家族のため、毎日毎日働き続けました。その結果が今の苦しい苦しい、不安な不安な石綿肺です。世の中はなんと不平等なのか、と思つてしまいました。

●泉南市では7つの会派すべてから議員団の団体署名あつまる
泉南市議会の7つの会派(公明、共産、心政クラブ、地方民会、拓進クラブ、虹と緑、市政研究会)すべてから早期解決団体署名が集まりました。阪南市も進行中です。

●大阪・泉南アスベスト被害の早期全面解決を求める意見書「採択の状況」
控訴審をまえに、泉南市、阪南市、田尻町、貝塚市、熊取町、豊中市、吹田市、和泉市、泉大津市の9議会で早期解決の決議が採択さ

れています。なお、一審判決前には早期解決決議が大阪府をはじめ44自治体中24自治体で決議されています。

●早期解決1万団体署名にご協力ください
大阪高裁へ早期の解決勧告を要請し、国に對しては早期の解決の決断を求める二つの団体署名です。署名用紙は、
<http://www.asbestos-osaka.sakura.ne.jp/katasen/>
からダウンロードできます。